

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170401764), 法人名 (株式会社ハートケアライフ), 事業所名 (グループホーム ハートケアライフ八軒 (2階 ひだまり)), 所在地 (〒063-0847 札幌市西区八軒5条西3丁目3-26), 自己評価作成日 (令和6年12月10日), 評価結果市町村受理日 (令和7年3月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【特に力を入れている点】
認知症や心身の状況がどのような状態であってもご本人らしい生活が出来るように支援することです。介護者側の常識や概念に捉われず、ご本人の好みややり方を尊重するよう努めています。
【アピールしたい点】
ひとり一人が生活を楽しめるように、行事や音楽療法、カラオケ、習字など意欲を持って参加できる活動を企画し共に行っています。ことに食に関することには皆様興味があるので、たこ焼き・お好み焼きなど一緒に焼きながら楽しく召し上がって頂く機会を多くしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170401764-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和7年1月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はユニット内に掲示し、職員は共有し実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会では、地域に認知症のホームがあることを喜ばれており、町内会行事にも参加させて頂き協力関係にあります。また、地区センターの歌の行事には3名の方が毎月参加されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が犬の散歩の途中ホームによってくれた時やボランティアの方が来られた時に認知症について発信しています。昨年は町内会に講師として参加し講話をさせて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者へのサービスや行事報告を行い、参加者からの提案・ご意見を頂きサービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者とは施設長が密に連絡を取っています。また、生活保護を受けている方は保護課担当者職員が必要に応じて連携を取っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に委員会、研修を行っています。ユニット入口は夜間のみ施錠し日中は利用者が自由に出入りでき職員が付き添っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、定期的に委員会、研修を行っています。虐待につながる不適切ケアが起きないように職員のストレス軽減のための業務改善、職員間の協力関係の構築も大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度についての理解はしていますが、現在利用されている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定の際は利用者や家族等に丁寧に説明し理解を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で職員は利用者や家族の意見、要望を聞き取る姿勢を常に持つように心掛けています。直接言えない方のためにご意見箱を設置しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員が意見を表明しやすい風土を作る努力をしており、職員の提案は運営やケアの現場で取り入れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、勤務表などを精査し職員各自の休み希望や事情などを考慮しながらシフトを作っています。ステップアップの研修を受ける機会を与え、向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に集合で行くことは少なくなりましたが、オンライン研修は出来るだけ受講出来るようにしており、ステップアップのための研修は受験資格のある方には受講して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降は機会が少なくなりましたが、グループホームの管理者連絡会で空室情報などの協力関係は築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めて本人に関わる時は、優しい笑顔で接し本人が緊張せず話ができるようにしています。まず、本人が心を開いて思いや希望を話して下さるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と接する時は、入居までの間本人を支えた労いの態度で接するようしており、誠実な対応で家族が安心して相談出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人にとってどのような支援が必要か、どのようなことを望まれているか、家族はホームにどのようなことを期待し、望まれているかを探り対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人がどのようなことができ、どのようなことを意欲を持ってされるのかを観察し、職員と共に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の頻度や関わり方など家族の都合に合わせて、本人の心理的なサポートを担って頂いています。本人の愛犬を連れて面会される家族もいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は家族、親族の方が面会に来られています。また、自宅での親族の行事に参加するため外出されることもあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるように性格や好みなどを考慮しながら輪になって話ができるように席を配慮し、ソファやベンチで自由に関わり合えるようにしています。ボタンを止めてあげるなど自主的に支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族が電話をして下さったり、不用品を寄付して下さいしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で本人の思いを把握するようにして職員全体で共有し、ケアにつなげています。自分で表すことのできない方は職員間で話し合い本人本位で支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂いた情報は、全職員で共有して本人の人となり、サービス利用の経過などを把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の好み、有する力、状態の変化は常に把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方については、本人、家族に聞き取り職員間で相談して、本人がより良く暮らすための介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入しています。毎日の申し送りや勤務時間内で必要に応じて職員間で相談し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ホーム内のサービス以外は、札幌市のおむつサービス利用されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センターの「うたの会」や町内会の盆踊り・餅つきなど、地域の催しに参加し楽しめるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を伺い、希望に合わせてかかりつけ医を変更しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問する看護師には情報や気になることを伝えて、アドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、入院先や家族に様子を聞き、早期に退院できるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については入居時に説明し同意を得ており、大きく状態が変化した時にはその都度相談して希望を伺い、主治医とも相談しながらチームで支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は4月のユニット会議の前に心肺蘇生に実習を行いました。12月2日採用の職員は病院勤務経験者で毎年研修を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難については、定期的に訓練を行っています。地域との協力体制は運営推進会議の場で話し合っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識を持ってケアにあたっており、気になる言動を見かけた時には「虐待防止委員会」の議題に取り上げて検証しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは会話を多くするように心掛けて、思いの把握に努めています。ケアの際は本人が選択できるような声のかけ方に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・就寝・起床などは本人の体調や希望を確認しながら行っています。行事に誘うときも本人の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が使い慣れたシャンプー・化粧品類を使い続けられるようにし、理美容は希望に合わせて訪問業者を利用して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来ることは手伝って頂いています。たこ焼きやクッキー作りなど食べ物レクを実施しお誕生日には希望を伺い生寿司・ウナギなどを召し上がって頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表に水分を記入し、必要量が摂れるように支援しています。嚥下状態や口腔の状態により、刻みやミキサー食を提供する支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけをして、自分で十分にできない方は一部介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで良い方は毎日交換の支援を行い、パット等使用されている方は、尿量や排泄パターンを把握し適切な物を使用するよう職員間で話し合い必要に応じて変更しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、繊維質の多い食材を毎日取り入れています。排便の状況を主治医に伝え、個々の状態に合わせた整腸剤や下剤などを処方して頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3名までを基本として本人に伺いながら入浴支援をしています。汚染等があった場合はその都度シャワー浴や入浴の支援をしています。重度化した方は全身清拭で対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調観察と希望を伺いながら、休息支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はお薬の説明書で薬の内容を理解できるようにしており、服薬介助は本人が飲みやすいように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲を持って行えることは何かを把握し、役割として行って頂いています。歌は皆様が好きなので、音楽レクを多めに企画しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の催しや近くの散歩の支援をしています。定期的に自宅へ外出される方もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お一人が常に千円札を手帳に挟んで持たれています。以前は、コンビニにおやつを買いに行ったことがありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により取次ぎ自由にお話されていますが、手紙のやり取りをされている方は現在いません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は窓に遮光シールを貼りブラインドを使用して眩しさを軽減しています。トイレは分かりやすいように一をつけています。室内飾りは季節ごとに落ち着いた雰囲気飾りを利用者と共に作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けソファ、1人掛けソファ、ベンチを配置して自由に過ごせるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族が持ち込まれたものを置きながらも転倒や事故が起きないように本人の状況と希望に合わせて配置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に配慮した作りになっています。		